

骨密度測定について

皆さんは自分の骨量をご存知ですか。現在、高齢化や若い女性の無理なダイエットによって起こる骨粗しょう症が増加しています。その中で簡単に受けられる骨塩定量の検査は治療、あるいは治療の効果判定に重要であると考えられます。



骨塩定量測定の様子

骨塩定量測定とは、低エネルギーエックス線を利用して骨の密度を測定する検査です。測定値(計測値)をコンピュータにより解析して算出し、あるいは、正常な値(標準値)と比較することによって、骨塩量を知ることができません。骨塩とは骨の強度(密度・

ミネラル)のことで、年齢の疾患等による骨の変化を捕らえるものです。

西伯病院でも骨塩定量検査により患者様の骨量の測定を行っています。検査方法は利き腕でない前腕骨に非常に弱いエックス線を照射して検査します。痛みは全くありませんし、短時間で終了します。

自分の骨量を知り、また、骨粗しょう症を予防するためにも、定期的に測定することをお勧めします。

■骨粗しょう症とは

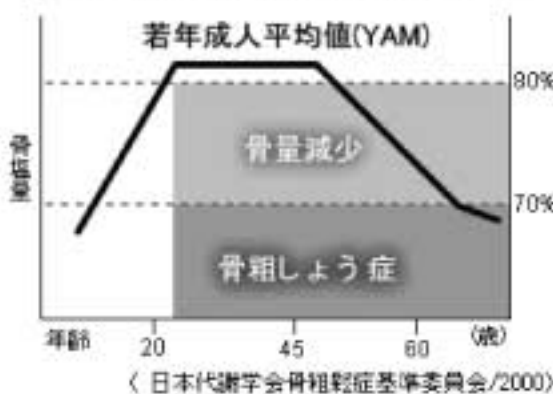
骨に『す(鬆)』が入ったように「すかすか」になり、支持性が失われる状態、すなわち骨のカルシウムが減少し、骨がもろくなつて骨折などが容易に起こり易くなる病気です。50歳以上、あるいは閉経後の女性に多く見られます。骨は外側の骨皮質とその中の海面骨からできていますが、骨皮質はそ

の密度が減少し薄くなっており、また海面骨も骨量の減少とともに、骨梁が切れたり、微細な骨折を起こしたりしています。

骨量が若年成人平均骨量(20歳代)40歳代前半の平均骨量)の70%以下になった場合を骨粗しょう症と言います。また、骨粗しょう症の予備軍として80%以下(70%以下)を骨減少症と言います。

放射線技師長 藪中 孝善

骨量を指標とした原発性骨粗しょう症診断基準



西伯病院の人事異動
採用(6月1日付)

荊尾 陽子 (理学療法士)
林原 久美 (看護師)

第10回健康講座のご案内

期 日 7月24日(火)
時 間 午後1時30分～2時30分
場 所 西伯病院1階 地域交流ホール
講 師 歯科衛生士、言語療法士
内 容 お口のお話とゴックン体操

私たちはふだん何気なく飲んだり、食べたりしていますが、加齢とともに、摂食・嚥下機能が低下すると、水や食べ物が飲み込めなくなったり、食べ物の一部が肺に流れ込んでしまうようになります。このような嚥下障害を予防するために、口の体操などを紹介しますので、皆さんお気軽にご参加ください。